

みんなで作る



北区



基本計画(案)

あなたの意見、きかせてね。



目次

1章 北区基本計画って？ P.1～

- ① 計画の位置づけ
- ② 目標年次
- ③ 策定経過

2章 どんな北区を目指す？ P.4～

- ① 北区が目指すまちの将来像
- ② 私たちを取り巻く環境
- ③ まちの将来像を実現するための13の目標
 - 1.環境と共生した持続可能なまち
 - 2.豊かな自然環境と共存するまち
 - 3.すべての人の人権が尊重されるまち
 - 4.区民主体で取り組む地域活動があるまち
 - 5.健康で安心して暮らすことができるまち
 - 6.安心安全なまち
 - 7.障害がある人との交流があるまち
 - 8.大学の力がいかされるまち
 - 9.地域ぐるみで支え合う子育て環境のあるまち
 - 10.災害に強く安心して住み続けられるまち
 - 11.地域に根差した生涯学習・文化活動のあるまち
 - 12.北区の特色ある産業をいかした活力あるまち
 - 13.賑わいある拠点があるまち

3章 ライフステージに応じた取組 P.11～

- ① あらゆる世代と共に基本計画を推進するために
- ② 10のライフステージ等ごとの取組アイデア
 - 子ども世代 / 若者世代 / 働き世代
 - 高齢世代1 / 高齢世代2 / 大学生 / 子育てする人
 - 北部山間地に暮らす人 / 障害のある人 / 外国から来た人

4章 取組を推進するためのリーディングプロジェクト P.33～

- ① 北区まちづくりプラットフォーム
- ② 6つのリーディングプロジェクト

参考資料 P.35

1章

北区基本計画って？

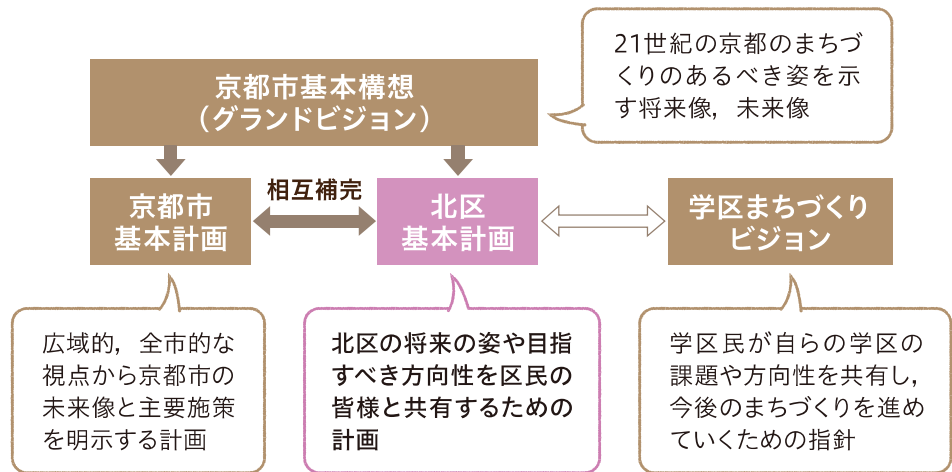
1 計画の位置づけ

北区基本計画は、京都市基本計画と同列に位置づけられ、相互に補完し合う関係にあります。京都市基本計画は、広域的、全市的な視点から京都市の未来像と主要施策を明示する都市経営の基本となる計画です。

本計画は、京都市基本計画を踏まえながら、更に、北区の独自性、地域の視点を加えて、北区のまちづくりを進めるためのもので、北

区の将来の姿や目指すべき方向性を共有するためのものです。

また、学区民が自らの学区の課題や方向性を共有し、今後のまちづくりを進めていくための指針となる「学区まちづくりビジョン」の策定も進んでおり、区民の皆様が主体となった動きが北区基本計画の推進につながっています。



2 目標年次

北区基本計画は、令和7(2025)年を目標とした計画です。



3 策定経過

「北区基本計画(令和3年度～)」の策定に当たっては、多くの北区に関わる方々にご参画いただきました。平成25年11月には、専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、25名の皆様からなる「京都市北区民まちづくり会議」(以下「まちづくり会議」という。)を設置し、議論を重ねてきました。

平成30年度には、当時の座長及び副座長に就任いただいていた学識者の皆様から、様々なテーマで講演していただくとともに、4回にわたる学習会を開催し、まちづくり会議委員による意見交換を行いました。



講演内容

- 京都産業大学現代社会学部長 藤野敦子氏
“家族って何だろう～家族観から私たちの「社会」や「社会問題」を考える”
- 佛教大学保健医療技術学部教授 松岡千代氏
“災害に強いまちづくり：共助と自助のソフトパワーと要配慮者の避難支援について”
- 大谷大学社会学部長・北区民まちづくり会議座長 志藤修史氏
“私たちの暮らしとまちづくり～人に優しいまちを目指して～”
- 立命館大学文学部准教授 河角直美氏
“地図を使って北区のまちの歴史を知る、伝える”

令和元年度には、まちづくり会議の下に①人口減少部会、②防災部会、③高齢化部会、④文化・観光部会の4つの部会を設け、ワークショップ形式による議論を行いました。部会には、まちづくり会議委員はもとより、北区に関わる様々な主体が参画する北区未来につながる区民会議委員の皆様や各学区で積極的に活動されている区民の皆様、北区内の4つの大学(大谷大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学)の学生の皆様のほか、「北区民まちづくり提案支援事業(※1)」や「北区つながるワークショップ(※2)」の参加経験者等、延べ350名の方にご参加いただき、約1,000件にも上るご意見や取組アイデアが寄せられました。



(※1) 北区民まちづくり提案支援事業とは

…区民の皆様の自主的・自発的なまちづくり活動を支援するため、その費用の一部を補助する事業

(※2) 北区つながるワークショップとは

…参加者の皆様が楽しく交流しながら、よりよいまちについて考え、行動するための一歩を踏み出すための対話型ワークショップ

部会名		日程	出席者数	参加者の例
単 独 部 会	人口減少部会 (部会長：藤野京都産業大学現代社会学部長)	6/25	41名	シェアハウス運営団体, 中小企業家同友会
	防災部会 (部会長：松岡佛教大学保健医療技術学部教授)	6/26	49名	地域包括支援センター, 京都ライトハウス
	高齢化部会 (部会長：志藤大谷大学社会学部長)	8/28	69名	民生委員, 老人福祉員
	文化・観光部会 (部会長：河角立命館大学文学部准教授)	9/2	55名	能楽師, 伝統工芸, 茶道, 神社仏閣の関係者
合同部会 ※4部会の合同開催		12/17	79名	単独部会に 出席いただいた方々
		12/22	54名	

このように議論を重ねた結果、**北区では、「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりの一層の推進を念頭に、区民一人ひとりの日常生活において、「つながり」が大切であるということが実感できるよう取り組んでいくべきだという大きな方向性が確認されました。**

計画全体の推進には、「つながり」をつくるという方向性を盛り込み、素案をまとめました。

令和2年度のまちづくり会議では、より実効性の高い計画策定を目指し、計画の中で記載している「10のライフステージ等ごとの取組アイデア」について、ワークショップ形式で議論を深めました。各分野の専門家である委員の皆様からは、「各分野の既存の取組をしっかりと把握する必要がある」、「計画を進めていくためには、我々も主体的に、住民参加で進めていくことが大変重要なポイントだ」といったご意見をいただきました。



2章

どんな北区を目指す？

1 北区が目指すまちの将来像

豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、人々がお互いに支え合い、活力を持っていきいきと暮らすまち

前計画では、北区民円卓会議、北区基本計画策定懇談会、北区基本計画策定100人委員会での討論、さらにはアンケート調査等、幅広い議論を積み重ね、将来像として「豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、

人々がお互いに支え合い、活力を持っていきいきと暮らすまち」を定めました。今回の計画においても、この区民を挙げた議論から生まれた将来像を引き継ぎ、その実現に向けて新たな取組を推進します。

2 私たちを取り巻く環境

「まちの将来像」は、変わることのない理想像として、前計画から本計画へそのまま引き継ぎましたが、私たちを取り巻く社会経済情勢は、前計画の策定時から大きく変化しています。

特に、3つの大きな変化があります。

(1) 人口減少の本格化

人口減少、少子高齢化の傾向は、大きなうねりとなっており、国の長期推計でも、この傾向は今後も続く見通しです。

(2) 地球温暖化の加速

地球温暖化が一因とされる、毎年の豪雨、巨大台風、猛暑、豪雪など極端な気象により、我々の生活は脅威にさらされています。

(3) 厳しい財政状況

これまで、京都市では、福祉・医療・教育・子育て支援など、国や他都市を上回る水準の独自施策を実施すると同時に、都市の魅力向上、経済の活性化、豊かな市民生活の実現に取り組んできました。その結果、令和元年度には、市税収入が過去最高となるなど、成果は着実に現れたところですが、しかしながら、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、こうした成長シナリオに急ブレーキがかかり、このままでは財政再生団体となり、国や他都市を上回る水準の施策は一切できなくなる可能性もある、危機的な財政状況に陥っています。

3 まちの将来像を実現するための13の目標

上記のような厳しい社会経済情勢の中で、まちの将来像を実現していくために、具体的な13の目標及び取組を設定します。

豊かな自然環境を更に大切に育むとともに、脱炭素社会を目指す取組を区民ぐるみで進め、大切な地球を、住みよい北区を、確実に次世代に伝えていきます。

老いも若きも手を携え、性別、障害の有無、国籍などに関係なく、お互いを尊重しながら、子育てしてよし、働いてよし、文化に親しみ、心豊かに、健康で長生きできるまちをつくりまします。

地域における支え合いは、平時はもちろん、災害時においても、安心安全に暮らせ

るまち、賑わいがあり、魅力溢れるまちづくりの原動力となるものです。

厳しい財政状況の中だからこそ、**区民、各種機関、企業、大学、行政等多様な主体が一体となって**、13の目標に取り組み、まちの魅力を高め、人が集まり、経済が活性化し、それが更にまちの魅力の向上につながります。そうした、**まちづくりの好循環を実現**していきます。

SDGsやレジリエンスの考え方を踏まえ、厳しい状況に負けず、しなやかに、したたかに、**誰一人取り残さない「地域力」**を發揮し、**持続可能な「まちの将来像」**として実現していきます。

北区が掲げる13の目標とSDGsマーク

SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、誰一人取り残さないことを目指し、2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標を示しています。

北区が掲げる13の目標でも、それぞれがSDGsのどの目標につながっているのかを明示しています。

更に、迫りくる人口減少社会に危機感を抱き、取組を進めていくため、**北区独自にSDGs18番目の目標として「人口減少社会に立ち向かう」を打ち出し、あらゆる取組において人口減少社会における課題に向き合います。**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



北区独自の 18番目の目標



1. 環境と共生した持続可能なまち

私たち一人ひとりが、地球全体の環境問題を意識した循環型社会の実現に向けて取り組んでいきます



持続可能なまちの実現に向けて、京都市では「2050年に二酸化炭素(CO₂)排出量正味ゼロ」となる脱炭素社会の実現を目指しています。

この目標の達成に向けて、温室効果ガス削減の取組に加え、食品ロスの削減、プラスチックの資源循環などの2R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用))の推進や分別・リサイクルの徹底、新たにリニューアブル(再生可能資源の活用)に取り組むなど、ごみを出さない暮らしや事業活動への転換を図っていきます。

主な取組

ニコニコ北っ子「子ども服リユース☆事業」

不要になった子ども服や絵本を収集し、必要とする家庭に無償で譲渡する取組を実施。



2. 豊かな自然環境と共存するまち

豊かな自然環境を北区固有の地域資源として、
みんなが誇りと親しみを持って大切に保護し、次世代に継承していきます



北区には、自然豊かな山林があり、北山の山並みや北山杉の美林景観が見られるほか、まちなかでも京都を代表する川である賀茂川や天然記念物に指定されている深泥池生物群集の水辺環境、森林浴が楽しめる船岡山など、身近に触れられる自然がたくさんあります。これらの豊かな自然に恵まれた環境との調和に配慮しつつ、生物多様性の保全・回復にも取り組み、安心して住み続けられる環境づくりを進めていきます。

主な取組

北山三学区ホームページ(移住促進の取組)

移住希望者向けに、北部山間地で暮らす魅力を発信するとともに、移住支援情報や、移住後の困りごと等に対応するための情報を発信。



3. すべての人権が尊重されるまち

性別、性的指向や性自認、年齢、障害の有無、生まれや生き立ち、国籍、民族などに関係なく、全ての人がお互いを認め合い、より豊かな人間関係が形成されることを目指して、啓発活動等に取り組んでいきます



少子化、国際化、情報化等社会が様々に変化する中、考え方や生き方が多様化しています。また、新型コロナウイルス感染症により、人との関わり方への大きな変化も生じています。どのような状況下でも、人と人との緩やかにつながり、差別や偏見のない、人権が尊重される明るい社会を築いていきます。

主な取組

人権のつどい

北区「人権のつどい」では、いじめ、LGBT、多文化共生社会、子ども虐待、障害など様々なテーマを通じた講演等を実施。



人権月間の取組

人権が尊重される明るい社会を築いていくため、学校や地域、職場などにおける人権教育・啓発の取組を推進。



4. 区民主体で取り組む地域活動があるまち

個人のライフスタイル、価値観の多様化や地域社会の変化に対応し、**“つながり”による多様な取組を進めていきます**



単身世帯の増加やライフスタイルの変化など、様々な要因により自治会・町内会加入率の減少が続いており、地域活動の担い手不足などの課題にも直面しています。区民一人ひとりが地域コミュニティに関わりを持つためのきっかけづくりや、PTAや若い世代の方々が企画するイベント等をサポートする取組を進めていきます。

主な取組

学区まちづくりビジョン

学区民が自らの学区の課題や方向性を共有し、まちづくりを進めていく指針となる「学区まちづくりビジョン」を策定。

紫竹SPAT (スパット)

紫竹学区の自治会活動の活性化を目指す30～40代の若手有志による会。地域住民が楽しみながら自治会活動に関わることができる各種行事の企画を実施。



5. 健康で安心して暮らすことができるまち

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう取組を進めていきます



北区は高齢化率が京都市で3番目に高い区となっています。あらゆる世代に健康への関心を高めてもらい、「健康寿命」の延伸を図るため、全世代を対象とした健康づくりに取り組んでいきます。また、高齢者が住み慣れた地域で心身共に健康で、生きがいを持ち、安心して暮らすことができる環境整備なども進めていきます。

主な取組

健康長寿のまち・北区

区民がいきいきと健康で過ごせるまちづくりを目指し、北区オリジナル健康体操「Happy☆キタエちゃん体操」や「インターバル速歩」の普及啓発等、区民ぐるみの健康づくりを推進。

「健康長寿のまち・北区」応援マスコットキャラクター キタエちゃん →



北区高齢すこやかステーション

高齢者に関わる多様な機関（介護事業所、病院、銀行、コンビニなど）が「北区高齢すこやかステーション」として登録（341箇所（令和2年11月末時点））し、高齢者の見守りや情報の提供、関係機関へのつなぎなどを実施。



6. 安心安全なまち

誰もが安心安全に、笑顔で楽しく暮らし、観光できる、
優しさ溢れるおもてなしのまちづくりに取り組んでいきます



市民生活の一層の安心安全の実現及び令和5年の大阪・関西万博等の開催を見据えた、観光旅行者等に対する安心安全の向上を目指します。

主な取組

北区安心安全の日

毎月15日を「北区安心安全の日」と定め、犯罪や交通事故、火事などのない安心安全なまち北区を実現するため、地域、大学及び関係機関がオール北区で安心安全への意識を高める取組を実施。

高齢者の特殊詐欺被害防止

手口が多様化する特殊詐欺から高齢者を守るため、北区民生児童委員会と北警察署、北区役所が連携協定を締結し、更に老人福祉員とも連携しながら特殊詐欺被害防止に向けた取組を強化。防犯機能付き電話機の普及促進や「固定電話機用啓発ポップ」の配布による注意喚起を実施。



7. 障害がある人との交流があるまち

障害がある人もない人も、誰もが地域で安心して
自分らしく暮らし続けていくための支援を充実していきます



北区には、京都ライトハウスや京都府立盲学校が立地しています。障害のある人が、地域で自立した生活を営み、様々な分野の活動に参加できるよう、関係機関が連携して取組を進めています。

主な取組

フナオカスタンダード

「北区に住む障害のある人もない人も誰もが共に楽しむ関係が日常のスタンダードに」との思いで開催されているお祭。自主製作品の販売、ステージ発表等を通じて交流を促進。

北区障害者支援連絡会による区役所月一販売会

北区内にある障害者福祉サービス事業所等が交流を深め、北区内の障害者福祉の前進を目的に、北区役所内で各事業所のつくった物品や野菜等の販売会を実施。



8. 大学の力がいかされるまち

大学が持つ知恵や学生の力をより一層まちづくりに活用するとともに、
地域住民の一員である大学生と地域の絆をより深めていきます



北区には4つの大学（大谷大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学）があり、留学生も含めて約4万人の大学生が在籍しています。北区のまちづくりの課題解決に向けた区民、団体、大学等による協働の取組を進めています。

主な取組

北区における大学地域包括連携協定

北区内の4大学と北区役所、北消防署、北警察署が地域コミュニティの活性化、安全安心の推進、地域・社会貢献できる人材の育成、健康長寿、はぐくみ文化の創造など様々な分野で協定を締結し、大学、地域、行政の連携を強化。

大学生によるラジオミックス京都を使った情報発信

北区内4学区の学生がそれぞれに番組を制作。大学ごとの個性を出しつつ、学生ならではの目線で北区で仕事や地域活動に取り組む方に地域の魅力や取組への想い等を取材し、地域に密着した情報をコミュニティFM放送局ラジオミックス京都で発信。



9. 地域ぐるみで支え合う子育て環境のあるまち

多くの地域住民等が子育て支援に参画し、子どもの成長や子育てを地域全体で温かく見守り、支え合えるよう取組を進めています



社会全体で出生数が減少する中、北区でも子どもの数は減少しています。

一方で、子育て家庭を支援するため、身近な場所で子育てサロンや交流が行われています。子育て家庭の孤立防止や育児困難感の軽減のために、妊娠中や産後早期から子育て支援の場につながり、安心して出産・育児ができる環境を整えています。

主な取組

ニコニコ北っ子 「つながるフェスタ」

様々な触れ合い遊びを行いながら、乳幼児・保護者と地域で児童や子育てに関わる支援を行う主任児童委員等が出会い、交流する取組を実施。



新生児等訪問指導事業 (こんにちは赤ちゃん事業)

保健師や助産師、保育士が生後4箇月までの乳児のいる家庭を訪問し、赤ちゃんの体重測定や健康状態の確認、お母さんの産後の体調や生活、育児等について相談を実施。



10. 災害に強く安心して住み続けられるまち

区民一人ひとりの防災意識と災害対応力を向上させ、要配慮者等の避難時に地域の支え合いが十分に発揮されるよう、地域防災力の更なる強化に取り組んでいきます



甚大な被害をもたらす異常気象が常態化し、北区内でも多くの被害が発生しています。高齢化社会が進展する中、大規模な自然災害に備える重要性がますます高まるとともにウィズコロナ社会における感染防止対策を講じた避難所運営など、今までにない対策が必要です。

災害による被害軽減のため、コロナ禍での感染対策や高齢者、妊産婦、障害のある方等の要配慮者への支援の視点を取り入れた訓練、啓発を行い、いざという時に手を取り合って避難できるよう、地域におけるつながりづくりに取り組めます。

主な取組

北区総合防災訓練

住民、地域団体、行政が連携して、コロナ禍での避難所運営・ペット避難・救出救護訓練等、大規模災害に備えた訓練を実施。参加者が自助、共助、公助の役割を認識することにより、防災意識の向上、地域防災力の強化を推進。



柏野学区防災まちづくり計画

柏野学区防災まちづくり委員会を中心に、まちあるきやワークショップ、学区民アンケートなどにより得られた意見を基に、平成30年3月に、地域の防災上の課題や対策のあり方をまとめた「柏野学区防災まちづくり計画」を策定。地域が一体となって、密集市街地における防災の取組を推進。



11. 地域に根差した生涯学習・文化活動のあるまち

まちの魅力やまちへの愛着を育むかけがえのない地域資源を次世代へ継承するとともに、まちづくりの様々な場面でいかします



世界遺産である賀茂別雷神社（上賀茂神社）や鹿苑寺（金閣寺）などの神社仏閣をはじめ、豊臣秀吉によって築かれた御土居、伝統的なまちなみなどの豊富な文化財や、五山の送り火、葵祭、やすい祭などの伝統行事、地藏盆や松上げ、どんなど地域に根付く数多くの文化を次世代に継承するとともに、まちづくりの様々な場面でいかします。

主な取組

北区WAのこころ創生事業

家族や地域の絆、先祖を敬い子孫・未来に思いを致す心、自然への深い感謝の念など、「日本のこころ」を次世代に継承していくために、北区に縁のある“ホンモノ”の伝統文化の魅力発信等を実施。



「どんど」大宮文化振興会

地域の伝統行事として小正月に行われてきた火祭り。田畑の減少によりほとんど見られなくなった「どんど」を地域の子どもたちに継承するために、大宮小学校のグラウンドを使って実施。



12. 北区の特色ある産業をいかした活力あるまち

北区の自然環境や歴史文化等の地域の特性に育まれた、農林業や伝統産業、区民の生活を支え賑わいを創出する商業等、それぞれの特徴をいかした取組を進めています



インターネット通販の普及や生活様式の変化等により、伝統産業、農林業、商店街等を取り巻く環境が大きく変化しています。

北区固有の伝統産業や文化等をいかながら多くの方々「ホンマもん」を体験できる場や農作物の恵み、木材の心地良さに触れられる、食育・木育を身近な場所で体験できる場を提供するとともに、商店街の活性化に取り組んでいきます。

主な取組



農産物品評会での食育授業



商店街の夏まつり



北山丸太セリ市の風景

13. 賑わいある拠点があるまち

便利で快適な生活基盤の整ったまちの創造に向けて、ハード・ソフトの両面から、必要な施策・事業を進めています



北区内外の快適な移動を支える、安全で利便性の高い交通環境、子どもから高齢の方まで様々な人の集い・憩いの場となる公園づくりなど、区民生活や都市活動を支える都市基盤の整備・充実を図ります。また、楽只市営住宅において、団地再生事業の実施に伴い生み出される用地を有効活用して、京都市北西部地域の活性化に資するため、民間活力もいかながら、魅力と活力溢れる賑わいを創出していきます。

主な取組

船岡山を活かした魅力創出事業

金閣寺や上賀茂神社などに集中している観光客の分散化を念頭に、船岡山及びその周辺エリアの魅力を引き出し、全国に発信する取組を実施。



3章

ライフステージに応じた取組

1 あらゆる世代と共に基本計画を推進するために

北区は、各学区における意欲的な地域交流行事、医療・介護機関、銀行等が連携した高齢者の見守り活動、若手の方々による地域活性化を目指した取組、地域住民による子ども食堂や子育てサロンの開設等、様々な領域で活発な地域活動が行われるなど、**地域コミュニティが持つ“つながり”が強いことに特色があります。**

前章に掲げる「まちの将来像を実現するための13の目標」に向けて、“つながり”を大切にしながら、**区民、各種機関、企業、大学、行政等多様な主体が一体となった取組が進んでいます。**

一方、全国的には、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、地域活動との関わりが少ない方々も一定数見られます。“つながり”が強いこの北区においても、例外ではありません。

こうした中においても、北区がこれからも暮らしやすく、魅力的なまちであり続けるためには、より多くの区民の皆様が自分ごととしてまちとの関わりを持つ、**“つながり”の力**

によるまちづくりが重要な役割を果たします。

そこで、本計画では、**より多くの区民の皆様がまちとの“つながり”を身近に感じ、まちづくりに参加してもらえよう、あらゆる区民の皆様を包含する10のライフステージや属性(以下「ライフステージ等」といいます。)ごとに「13の目標」の実現に向けた取組を再整理。これまでに皆様からいただいた、1,000件にも上る取組アイデアを10のライフステージ等ごとに集約し、具体的なアクションとして示しています。この計画を見たあらゆる世代の方々に興味・関心を持っていただき、自発的、自然発生的に基本計画の推進が促進されるよう取り組んでいきます。**

※3章で扱う「まち」とは、北区を範囲とした、そこに住む様々な人、社会福祉協議会や北青少年活動センターなどの機関、大学、企業、行政も含めた多様な主体の相互の関係により生み出される、まちを育む「緩やかな連帯の場(ネットワーク)」を指すものであり、インフラなどの都市基盤を指すものではありません。

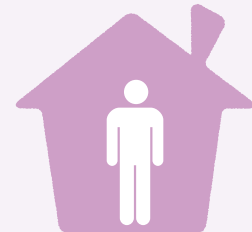
10のライフステージや属性

ライフステージ

1. 子ども世代
2. 若者世代
3. 働き世代
4. 高齢世代1
5. 高齢世代2

属性

6. 大学生
7. 子育てする人
8. 北部山間地に暮らす人
9. 障害のある人
10. 外国から来た人



子ども世代

若者世代

働き世代

高齢世代1

高齢世代2

大学生

子育てする人

北部山間地に暮らす人

障害のある人

外国から来た人



2

10のライフステージ等 ごとの取組アイデア





子ども
世代

家族や暮らしの変化，学業や習い事などの忙しさから，異なる世代の人と関わる機会が減っているが，成長していく中で未来に多くの可能性を秘めている世代

子ども時代の思い出を地元でたくさんつくってほしい。
北区の様々な人と出会い，色々な価値観に触れてほしい。
まちはそんな風に考えています。



まちはこんなことに取り組みます

様々な価値観と出会えるように、
北区の多様な人や場所、歴史、文化等に
触れ合う機会をつくります。

action

01

公園などを活用しながら、地域と子どもが
関わることができる機会をつくります

- 公園、寺社等を遊びの場所として活用するなど、地域の資源をいかし、子どもが集まるきっかけをつくります。
- 地藏盆や夏祭りなどで、子どもが企画したことをまちで実現できる環境をつくります。

action

02

子どもたちが多世代と共に安心して
過ごすことのできる居場所をつくります

- 児童館や地域で行われている子育てサロン、子ども食堂など、子どもが安心して集える居場所を増やします。

action

03

子どもたちが北区の様々な人、
仕事や暮らしに触れる機会をつくります

- 文化的・歴史的な背景が違うことによる価値観や特性、環境の違いに触れる機会をつくります。
- 地域企業や農林業など、北区にある身近な職業を体験できる機会をつくります。

まちで既に取り組んでいること

北区内の子ども食堂

北区には、商店街、飲食店、教会、大学、社会福祉施設、地域の



各種団体等様々な主体が開催する子ども食堂があります。どのような環境に置かれた子どもでも優しく迎えてくれる子どもの居場所が育まれています。

『新春上賀茂神社 子ども書初め』

上賀茂神社新春書道奉納実行委員会

子どもたちに伝統文化である書道をより身近に感じてもらうことを目的に、上賀茂神社において、書初めが行われています。また、字の上達を願って「書道上達願い納め」も実施されます。



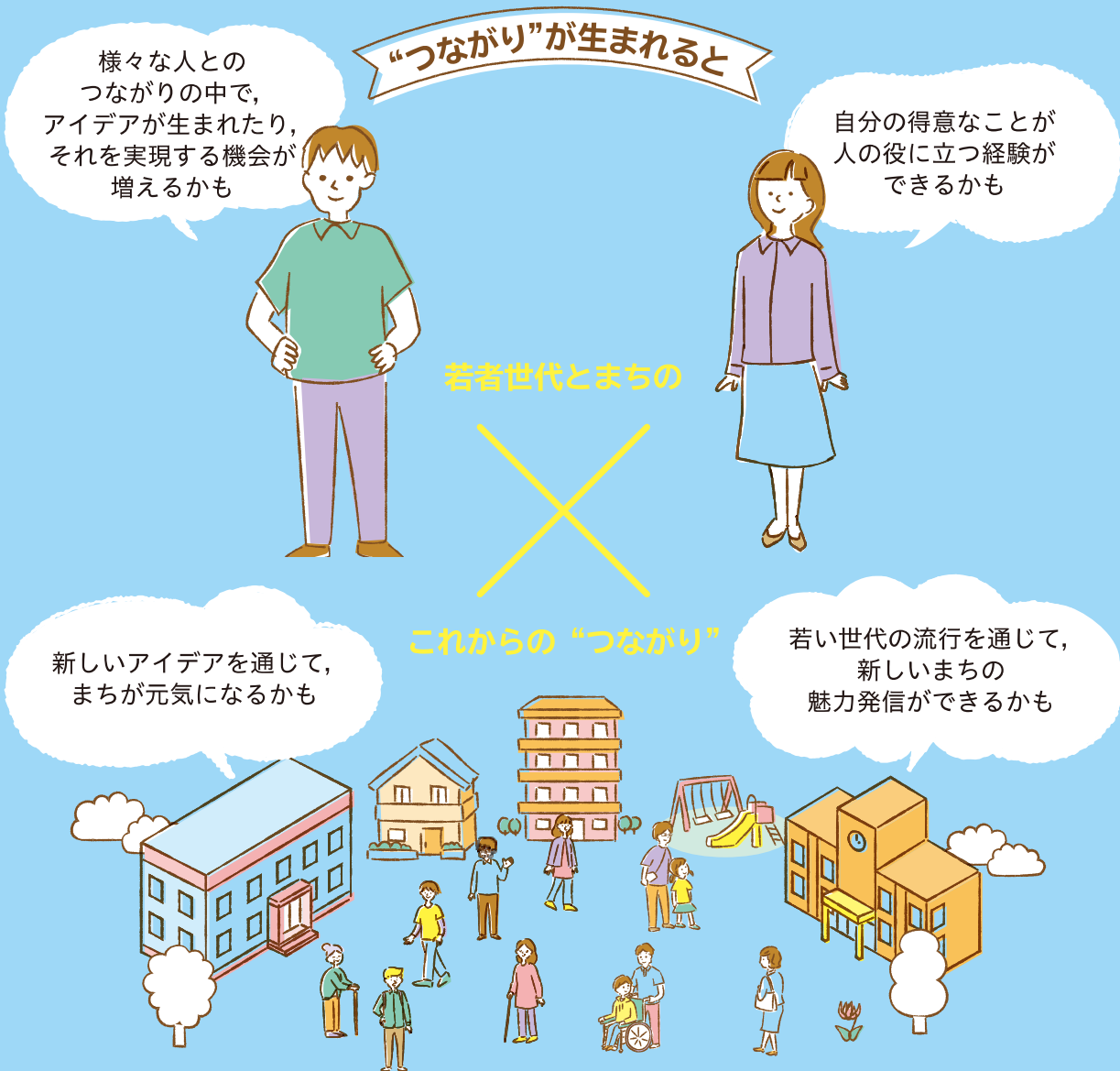


若者
世代

就職などで地域との関わりが薄れることも多いが、社会での新たな出会いや経験を積み重ね、自分の可能性を模索している世代

新たな出会いや経験から生まれるアイデアを多くの人と共感してほしい。

新しい情報やツール等をいかして、まちを楽しんでほしい。
まちはそんな風に考えています。



まちはこんなことに取り組みます

情報や流行に敏感な若者が出会い、
そこで生まれるアイデアが実現できるよう、
同世代が集える機会をつくります。
また、北区でのライフスタイルを
知る機会をつくります。

action

01

若者のアイデアを地域で共有し 実践する機会をつくります

- 若者に向けて情報をSNSや各種メディアを活用して発信します。
- 学区や神社のお祭などで、若者のアイデアや企画を実現できる環境をつくります。
- 地域への愛着の基礎となる、同級生同士のつながりの継続や、趣味や興味を通じた新たなつながりづくりなどを支援します。
- 「地域でこんなことしたい！」を起点に、アイデアを集め、実践につなげるしくみをつくります。

action

02

若者が安心して過ごすことのできる 居場所をつくります

- 地域の行事等を身近に感じ、安心して参加してもらうため、同年代の参加者の声を紹介します。

action

03

北区に住み、働く人の暮らし方や 仕事を紹介する機会をつくります

- 地域企業や農林業など、北区にある身近な職業を知る機会をつくります。
- 北区内の多様な事業所や北区内でいきいきと働いている人のライフスタイルを紹介し、就職先候補を増やします。

まちで既に取り組んでいること

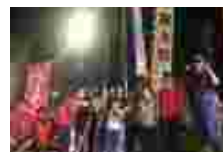
『ユースワーカーによる相談窓口』 北青少年活動センター

若者が将来に向けて自分自身の力で歩み出せるように、ユースワーカー（センターのスタッフ）が日ごろから関係をつくり、話しやすい存在として様々な相談に耳を傾け、サポートされています。



『パトラン（パトロール・ランニング）』 チーム KUSABI

赤色のTシャツが目を引く、若者を中心に構成されるランニンググループ。全国で走りながら地域の見守りに取り組まれています。令和元年夏には、区内初のグループが大將軍学区で発足。楽しみながら、緩やかにまちづくりに貢献できる好事例です。



社会での経験を積み重ね、様々なスキルや趣味、特技などを身に付けているが、人生の様々な転機や責任、忙しさなどからストレスを抱えることも多い世代

地域や人とのつながりを通じて、
新たな楽しさや役割を見出してほしい。
将来に向けて、豊かな生き方のヒントを見つけてほしい。
まちはそんな風に考えています。

まちでの活動を通じて、
仕事等のストレスから
解放され、ワクワク
過ごせる時間が
できるかも

“つながり”が生まれると

自分の得意なことが
人に役立つ経験が
できるかも

働き世代とまちの

将来的に、まちに関わって
くれるまちづくりの仲間
(担い手)が増えるかも

これからの“つながり”

様々なスキルや趣味を
持つ人とつながることで、
まちの活動の幅が広がり、
まちの魅力が高まるかも



まちはこんなことに取り組みます

充実した生活を送れるように、
楽しみながら関わるができる、
仕事や家庭以外のコミュニティを提案します。

action

01

これまでに培われてきた多様な経験やスキルを
まちづくりや社会貢献につなげる仕組みをつくります

- 地域の会議や活動などの時間短縮や役割の分散化など地域活動への負担を軽減し、多くの人が参加しやすい環境をつくります。
- SNSや各種メディアを活用し、地域の文化やまちづくりなどに関する情報を分かりやすく発信します。
- 趣味や特技をいかしながら地域課題解決を図るような、気軽に楽しく参加できるまちづくり活動を推進します。
- 働き世代のアイデアを活用し、地域企業等が事業を通じて地域と共に発展し、地域コミュニティの中でビジネスアイデアが生まれるような機会をつくります。

action

02

楽しく健康であり続けるために、
まちでの学びや交流を育む機会を増やします

- 大学や文化施設等での講座やイベントを通じ、生涯にわたる学びや交流の機会をつくります。

action

03

北区に住み、働く人の暮らし方や
仕事を知る機会を増やします

- 地域企業や農林業など、北区にある身近な職業や、そこで働く人の暮らし方を知り、視野を広げる機会をつくります。

まちで既に取り組んでいること

『北区 文化に親しむ交流会』 日本の文化に親しむ会

地域の有志が北区の茶道宗家(速水流家元)と共に北区の様々な資源とコラボし、北区が誇る“ホンマもん”を伝えるお茶会を開催。誰もが伝統文化との距離感を縮め、地域に誇りを持って、心豊かに暮らせるまちづくりを目指されています。

『もとまちもっちゃんチャンネル』 元町まつり実行委員会

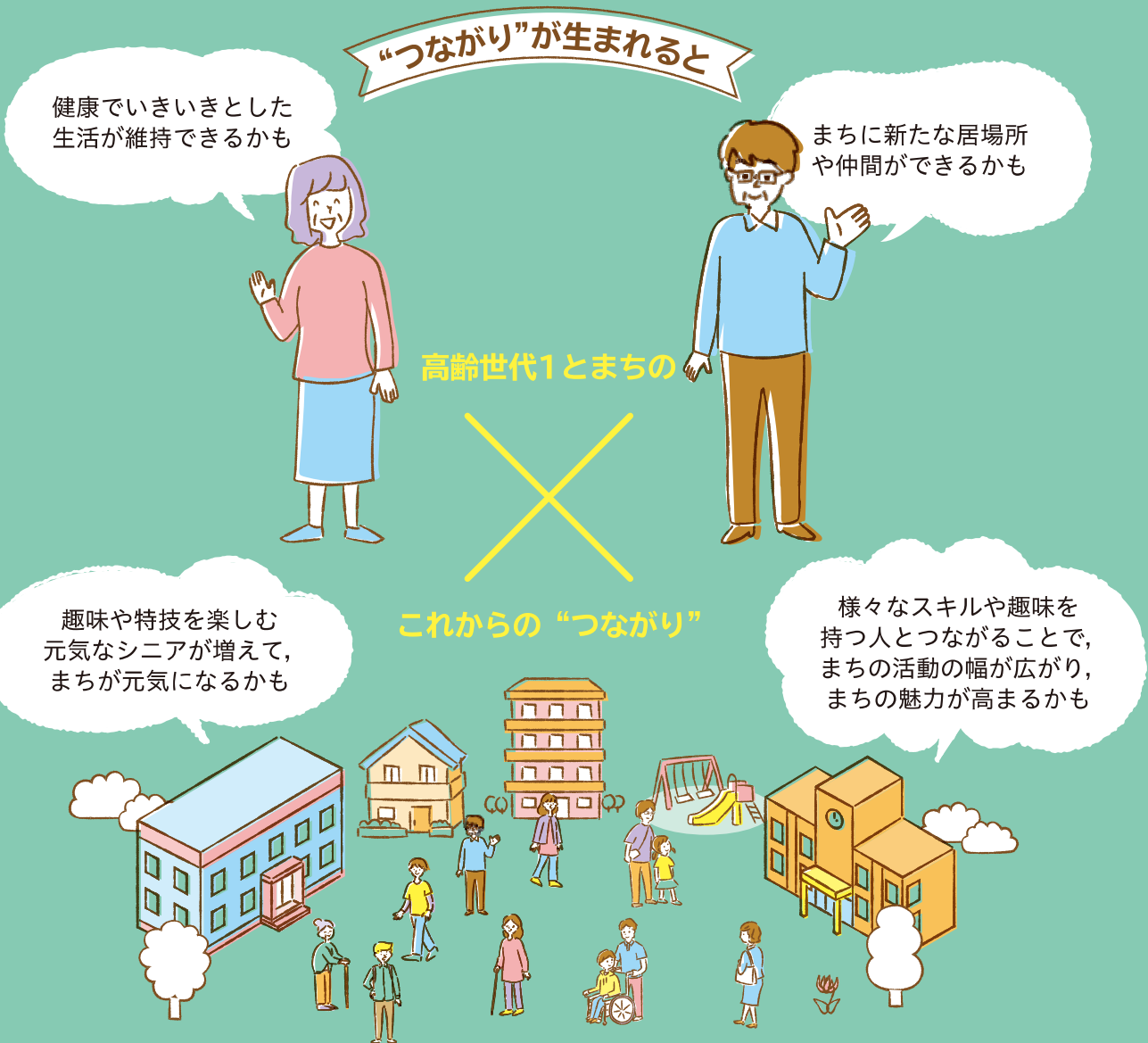


「元町全員がお友達!」をテーマに、元町学区の地域力を高める活動を実施。令和2年度は、コロナ禍で開催できなかった元町まつりに代えて、地域住民の皆さんから集めた様々な動画やクイズをYouTube上で公開し、次年度のまつりに向けて想いを温められています。

高齢 世代1

仕事や子育ても一段落し，自分のために使う時間が増えてくる一方で，生活基盤の変化や介護などに悩むこともある世代

これから先の健康的な生活のために，
趣味を楽しみながら元気に過ごしてほしい。
特技や経験をいかしながら，新たな出会いを楽しんでほしい。
まちはそんな風に考えています。



まちはこんなことに取り組みます

これまでの社会での経験や特技を
いかした出会いを育めるように、
新たな居場所をつくります。

action

01

地域活動に関する豊富な知識や経験を 次世代に伝える機会をつくります

- 自身の長年にわたる社会での経験や趣味、特技をいかせるよう、NPO・ボランティア団体の活動を紹介したり、地域活動に参加したくなるようなプログラムや仕組みをつくります。
- 地域活動への経験を次の世代に伝えるためのサポートを行います。
- 地形や危険箇所など、地域に長く住み続けていることで知り得る情報を集積し、地域の防災力を高めます。

action

02

多世代で対話する機会をつくります

- 生活上の様々な不安や悩みを和らげる交流の機会やネットワークづくりを進めます。
- 個食の解消を目指した多世代が集う居場所(みんな食堂)を増やします。

action

03

これまでの経験や地域に根付く歴史・文化を 次世代に伝える機会をつくります

- 自身の長年にわたる経験や地域に根付く歴史・文化についての知識等を次世代に伝える機会をつくります。

まちで既に取り組んでいること

『食をテーマとした学びと憩いの場づくり』 ぐーたん

北区役所が主催する、「北区つながるワークショップ」から平成27年度に生まれた団体。地域の高齢者と若者が料理づくりや食事を共にしながら、交流することを通して地域で安心して暮らし続ける環境づくりを目指されています。



『紫竹ローマクラブ』 紫竹自治連合会

これまでの経験や趣味をいかせず、孤立しがちな退職後の男性を対象に学区内でゴルフ、麻雀、料理など様々な趣味を通じた交流の促進を図り、地域活動に携わるきっかけをつくられています。

